

手元に「高校生の頃にしてほしかったキャリア教育って何？～卒業後に振り返って思うキャリア教育の意義～」というリーフレットがある。これがなかなかよい。

我々教員は、キャリア教育に日々取り組む中で、生徒が意義を感じているか悩むことがあると思う。キャリア教育の意義は、すぐに実感されるものもあれば、後になって感じられるものもある。リーフレットによると、高校生のときに「役に立った」と感じ、卒業後に振り返ると「もっと指導してほしかった」と思う学習内容としては、

- ① 自分の個性や適性（向き・不向き）を考える学習
- ② 進学にかかる費用や奨学金についての情報
- ③ 社会全体のグローバル化（国際化）の動向についての学習

などである。これらは、高校生のときにも、そして卒業後に振り返ってみても、意義を感じられる項目である。キャリア教育の内容として重要視できるものである。例えば、社会全体のグローバル化の動向は、地理歴史科や公民科の授業で学ぶことができる。国際社会に主体的に生きる人間としての自覚と資質を養うことが、生徒のキャリア設計に結び付く。

高校生のときには「役に立たない」と感じたが、卒業後に振り返ると「もっと指導してほしかった」と思う学習内容としては、以下のものがある。

- 社会人・職業人としての常識やマナーについての学習

「社会人・職業人としての常識やマナー」は、卒業後に必要性が感じられている。高校生の頃には意義を感じにくいからこそ、学ばせ方に工夫が必要である。教職員の振る舞いも生徒にとっては学びの対象となる。日々学校内の高校生活の中で先生がまずは見本を示し、生徒とともにこのビジネスマナーを実践することが大切であるという意見もある。インターンシップに向けて事業所の方とやりとりをしている様子を見せるのもよいかもしれない。

高校生のときには「取り組んでいない（指導がなかった）」が、卒業後に振り返って「もっと指導してほしかった」と思う学習内容は、

- ① 就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応についての学習
- ② 転職希望者や再就職希望者などへの就職支援の仕組みについての学習

などである。これらは、卒業後に、高校生の頃にあつたら良かったと思う学習内容である。これらの内容についてのニーズは潜在的に高いと言える。変化が激しい社会においては、長期的なキャリア展望を持ちにくく、様々なリスクに直面することが予想される。高校生も保護者も「将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応についての学習」を望んでいる。将来直面する諸リスクに対して、生徒が学校で学んでいる間にいかに備えができるかが重要な課題の一つとなる。

梁川高校の3学期が今日から始まった。3年生はあと16日間しか学校にこない。この限られた日数の中でやれることの 하나가、前述の内容である。優先順位をつければ一番にくるのが、諸リスクへの対応と就職支援の仕組みについての学習となろう。本校の卒業生が3年以内に離職する割合は約3割である。これは全国平均も同様である。それぞれ個別の事情はあるにせよ決して看過できる数字ではない。卒業までにまだまだやれること、やるべきことがある。